石川県立美術館だより

平成19年12月1日発行　第290号

加賀藩の美術工芸と芸術院会員・人間国宝

重要文化財「蒔絵和歌の浦図見台」伝清水九兵衛作

平成19年11月27日（火）～12月13日（木）
石川県立歴史博物館　第1特別展示室
会期中無休

●加賀藩の美術工芸と芸術院会員・人間国宝
●ミュージアムレポート　お茶会／第5回バスツアー
●行事案内　12月の行事／1月からの行事
●当館所蔵品が見られる展覧会
●所蔵品紹介

URL　http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

石川県立歴史博物館《第1特別展示室》

加賀藩の美術工芸と芸術院会員・人間国宝

11月27日(火)～12月13日(木) 会期中無休
会場:石川県立歴史博物館 第1特別展示室

加陵頻伽宝相華文蒔絵経箱　松田 権六

九月三日より石川県立美術館は約一年間休館し改修工事に入りました。美術館の所蔵品公開の一環として隣接の石川県立歴史博物館第一特別展示室で開催する二回目です。金沢を中心とする石川県には、数多くの伝統工芸が地域に根付き、育まれ、東京、京都と並んで、日本を代表する工芸の盛んな地域として知られています。加賀藩主前田家は、初代利家以来、茶の湯を初めとした文化事業に深い関心を寄せ、なかでも三代利常は傑出した文化大名として知られています。また、二代利長時代からの「細工所」という武具甲冑を修理する組織を発展させ、蒔絵の五十嵐道甫、清水九兵衛、金工の後藤顕乗など当代一級の名工を招聘するなど、加賀蒔絵、加賀象嵌を中心とする加賀の工芸の基礎作りを行いました。

今回は加賀藩が育成した工芸美術コレクションの中から、陶芸では古九谷の「青手老松図平鉢」、「色絵鴛鴦流水図平鉢」、初代大樋長左衛門作「□飴釉烏香炉」、漆芸では伝清水九兵衛作「◎蒔絵和歌の浦図見台」伝五十嵐道甫作「□蒔絵螺鈿秋月野景図硯箱」など、金工は小市永次作「銀象嵌花筏文鐙」などの加賀象嵌に初代宮崎寒雉作「段々釜」、加賀友禅では「友禅松竹梅丸文夜着」など、約二十点を展示いたします。そしてその伝統を継承、発展させた石川県ゆかりの芸術院会員の中から、陶芸の板谷波山、二代浅蔵五十吉、十代大樋長左衛門、漆芸の佐治賢史、三谷吾一、金工の蓮田修吾郎の六名の作品を展示いたします。また人間国宝では陶芸の富本憲吉、石黒宗麿、三代徳田八十吉、吉田美統、漆芸の松田権六、赤地友哉、前大峰、大場松魚、寺井直次、塩多慶四郎、前史雄、小森邦衛、友禅では木村雨山、羽田登喜男、森口華弘、金工では初代と三代の魚住為楽、中川衛、金森映井智、刀剣の隅谷正峯、木工の氷見晃堂、川北良造、人形の堀柳女、截金の西出大三の二十四名の作品合わせて約五十点を一堂に展示いたします。

「飾りのある花器」　十代 大樋長左衛門

※尚、入館の際は歴史博物館の入場料が必要となります。

◎＝重要文化財　□＝県文化財

【主な展示作品】

色絵鴛鴦流水図平鉢	古九谷
◎蒔絵和歌の浦図見台	伝清水九兵衛
段々釜	初代宮崎寒雉
紫金磁葡萄彫紋花瓶	板谷波山
色絵更紗文蓋付飾壺	富本憲吉
耀彩鉢	三代徳田八十吉
菱文蒔絵平卓	松田権六
遊童図	木村雨山
大般若理趣分経之箱	氷見晃堂

当館作品が見られる展覧会

◆加賀の伝統美 石川県立美術館所蔵名品展

新潟県立近代美術館
平成19年11月23日(金・祝)～
平成20年1月14日(月・祝)

□青手樹木図平鉢	古九谷
◎色絵梅花図平水指	野々村仁清
色絵草花図絵替長皿	尾形乾山
◎四季耕作図	久隅守景
□槇桧図	俵屋宗達
千鳥蒔絵香合	松田権六
友禅黒地吉祥文振袖	木村雨山
砂張銅鑼	初代魚住為楽
	など138点

◆九谷古陶磁名品展 珠玉の石川県立美術館コレクション

石川県九谷焼美術館
平成19年11月3日(土・祝)～
平成20年3月2日(日)

色絵鳳凰図平鉢	古九谷
色絵布袋図平鉢	古九谷
色絵鶴文平鉢	吉田屋窯
色絵芦翡翠図平鉢	松山窯
	など30点

◆石川県立美術館所蔵品による「ひと・人・ヒト」

小松市立宮本三郎美術館
平成19年12月8日(土)～
平成20年3月9日(日)

酔燕台翁	伊東深水
1982年私	鴨居玲
フードの女	高光一也
	など20点

ミュージアムレポート

文化の森茶会　報告

１０月３日・４日の２日間にわたり、兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会と当館は、石川県立能楽堂別館の「対青軒」を会場に、当館所蔵の茶道具を使用した「文化の森茶会」を開催しました。この茶会は、当館が現在リニューアル工事のために休館中であり、昨年より兼六園周辺文化の森一帯で開催しているミュージアムウイークの多彩な事業の一環として開催したもので、普段はケース越しにご覧いただいている茶碗で抹茶を味わっていただくお茶会でした。一席の人数が１４名という極めて限られた人数であったため、ご参加の皆様には特別な一時をご堪能いただけたことと思っております。また、作品も茶道具本来の用の美として甦ったような気がいたします。

今回の茶会開催にあたり、吉倉虚白社中、大島宗翠社中の皆様をはじめご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。たくさんのご応募をいただきましたので、選外となられた方々にはここで改めてお詫び申し上げます。

こうしたお茶会や、ケース越しではなく直に作品をご鑑賞いただく「作品との対話」などをリニューアルオープン後の行事として検討しております。具体的になりましたらその際にはお知らせいたしますので、御期待下さい。

今回使用した作品は以下の通りです。

秋雨去来　高光一也筆／砂張鶴首花入　初代魚住為楽作／木彫截金扇面秋の合子　西出大三作／墨跡　玉舟宗璠筆／絵粉引花入／県文　蒔絵螺鈿秋月野景図硯箱　伝五十嵐道甫作／色絵花笠香合　野々村仁清作／松花堂筒角釜／曙小屏風　寺井直次作／備前種壺水指／老松蒔絵棗　松田権六作／熊川茶碗　銘沢辺／刷毛目茶碗／御本半使茶碗／竹茶杓　千　宗旦作／祥瑞二段捻鉢／呉須赤絵魚藻文鉢

第5回 バスツアーの報告

実施：10月28日(日)

本年２回目の日帰りバスツアーとなる今回は、「霊峰白山と前田家にまつわる美を探訪する」と題して白山麓、小松方面を巡ってきました。白山は奈良時代の修験僧、泰澄が開山したとされ、現在も泰澄開基のいわれを持つ寺院が多く残っています。今回は「信仰の山」としての白山と前田家とのつながり、そして前田家、特に三代利常の文化大名としての側面を浮き彫りにしようとする企画でした。当日は天候に恵まれ、雲一つない空のもと、白山麓の自然も満喫して頂きました。

最初に訪れたのは「白山比咩神社宝物館」です。こちらでは神社の方から白山比咩神社の歴史、前田家とのつながり、又重要文化財をはじめとする数々の宝物について丁寧に解説していただきました。「しらやまさんはよく来るが宝物館は初めて」との喜びの声もお聞きしました。

白峰の「林西寺・白山本地堂」では本地堂の重要文化財の銅造十一面観音立像をはじめとする下山仏像群だけを堪能していただきましたが、アンケートには「やはり本堂も見たかった。」というお声もいただきました。お寺とのスケジュールがあわなかったため本堂を見ていただくことが出来ず、こちらとしても残念でした。

昼食前に「白山ろく民俗資料館」へ。館長さんが熱心に白峰の歴史を語って下さり、はじめて聞く土地の歴史に感嘆しきりでした。

すぐ近くに御前峰の頂上が望める食堂で、景色と岩魚の塩焼きを味わったあとは、一路「那谷寺」へ。那谷寺は泰澄の開基とされ、平安時代には興隆しましたが、中世に入って南北朝の争いや、一向一揆の影響で衰退します。しかし江戸時代に入って前田利常により、再興を果たした歴史があります。御僧侶から金堂の本尊丈六の十一面千手観音を始め、白山曼荼羅などを解説して頂きました。

そしていよいよ最後の目的地、「仙叟屋敷・玄庵、小松市立博物館」へと向かいます。仙叟屋敷・玄庵ではお茶とお菓子のもてなしを受け、旅の疲れをいやします。お菓子は裏千家御用達の老舗の菓子をわけていただきました。茶室の説明を詳しく聞きながら皆さん感動の面持ちでした。また、博物館では担当の学芸員の方より前田家と仙叟のつながりなど熱心に語って頂き、満足いただけた御様子でした。

終わってみると、やや具沢山で、アンケートでも「見学件数がやや多く足早な印象だった。」という感想が読みとれました。「もう少しゆっくり見て頂けたらよかった」と反省しております。ともあれ、行き届かない引率にもかかわらず、ご参加頂いた皆様のご協力で事故なく終えることができ、感謝の念に堪えません。またのご参加をお待ちしております。

所蔵品紹介 183

いろえおしどりりゅうすいずひらばち

色絵鴛鴦流水図平鉢 古九谷

江戸時代　17世紀

口径33.7　底径19.7　高5.6（cm）

　見込を八角に間取り、そこにつがいの鴛鴦をきりっと締まった細い線で描いています。流れる水には静かにたたずむ一羽を、そして岩の上にはすくっと立つ一羽を五彩で彩っています。その八角の外側は、緑・赤・黄・紫・紺青の順に五彩の帯をめぐらしており、中にはそれぞれ黒呉須で小紋を描いています。その周囲にやや変形した亀甲を内の八角に合わせてめぐらし、紗綾形紋・亀甲小紋・七宝文・毘沙門菱・四方襷文を配しています。向かい合わせに黄・緑・紫・紺青を彩り、それらのつなぎを赤で描いて全体をまとめています。山水花鳥と幾何学文とを組み合わせた作品としては、最も早い時期に属するものと考えられ、形としては大きくありませんが、重厚豪快で古格があり、初期的な意匠効果をねらった作品と思われます。

　裏面は、牡丹唐草を紺青で力強く描いており、高台内銘は二重角の変形「福」字で紺青を施しています。

行事案内

12月の行事

■映画会

日時／12月16日(日)午後1時30分～

会場／県立生涯学習センター（3階35号室）　入場無料

・「萩焼　十一代三輪休雪の鬼萩」（37分）

・「羅　北村武資のわざ」（32分）

・「人形作家 秋山信子―心やすらぐ人形を―」（38分）

1月からの行事について

一月からの行事については詳細を次号以降に掲載致しますのでご確認願います。

会場／県立生涯学習センター（3階35号室）　入場無料

日程

1月
- ●1月13日(日)
- ●1月20日(日)

2月
- ●2月3日(日)
- ●2月10日(日)
- ●2月17日(日)
- ●2月24日(日)

3月
- ●3月2日(日)
- ●3月9日(日)
- ●3月16日(日)
- ●3月23日(日)

（時間はいずれも午後一時三十分開始です。）

十一月号の所蔵品紹介を184回と記載しておりましたが、182回の間違いでした。訂正しお詫び申し上げます。

石川県立美術館だより 第290号
2007年12月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580　Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。